



## 東北復興 PSW にゆうす

8月30日（金）・31日（土）名古屋国際会議場で開催された第55回（公社）日本精神保健福祉士協会全国大会・第18回日本精神保健福祉士学会学術集会での被災地障害者作業所等製品販売事業は、盛況のうちに終わることができました。お買い上げいただいた方々、販売にご協力いただいた方々、商品のご提供をいただいた方々に感謝申し上げます。さて、今号は福島県支部支部長、福島県士会会長を勇退された鈴木長司さんのメッセージをお届けいたします。

### メッセージ

『私の想い —東日本大震災から現在まで— 』

（公社）日本精神保健福祉士協会福島県支部  
福島県精神保健福祉士会 理事  
前支部長・前会長 鈴木 長司（東北病院）



あの東日本大震災から8年が経ちました。被災された方々におかれましては、如何お過ごしでしょうか？環境を変え新たな場所で生活をされている方、まだまだ落ち着かず苦労されて生活を送っている方など心労が絶えない方はたくさんいらっしゃると思われます。心情をお察しし、平穏な生活に戻れるように願っております。

国は東日本大震災の発生から、2016年3月までを集中復興期間と位置付けて25.5兆円を復興事業費に当て、2016年4月から2020年3月までを復興・創生期間として6.5兆円を当てた復興事業を行ってきています。この復興事業費がまさしく私たちの幸せに寄与してくれたのかどうか、色々な視点で検証しながら進めてもらいたいものです。

私の職場は震災にて全壊状態になりましたが、関係して頂いたたくさんの方々のお陰で、新しい建物に建て替えられ今も診療を続けられています。職員一同も元気に職務をこなしており、皆様に感謝しております。

個人的には、2009（平成21）年6月に福島県支部支部長・福島県精神保健福祉士会会長の任を拝し、以後10年を経験させて頂きましたが、2019（令和元）年6月に辞任いたしました。長かった10年と思っております。就任2年目（2010年）の12月に災害支援ガイドライン（日本精神保健福祉士協会第1版）を持ち、遅まきながら、福島県の障がい福祉課を訪問して災害支援方面に参考にして頂くと同時に連携が出来ればとお話をさせて頂きました。その翌年（2011年）の3月に東日本大震災が発生しました。後手だったなあと思いつつ前述した職場を含めた混乱で何も出来なかった自分がいました。ですがその後関係6団体協同の相談支援専門職チームへの参加、協会本部との連携、行政との連携を通して復興支援に携わって来ました。

今改めて思うに、大震災以降国や自治体の考え方が変わって来ている様に思います。異常気象を含めた、台風や豪雨等災害に対する予防的な考え方が強くなっていて、ニュースには逐次取り上げられ、自治体や関係機関も安全を優先した計画的予防策を取れるようになったと思われます。関係している私達が経験や教訓を忘れることなく、次世代に繋げていくことと同時に国や自治体、関係機関が安全を優先した考え方を進めることこそ、時間が過ぎ忘れ去られる事に歯止めを掛け、安心して生きていけることに繋がると思います。また、今までの経験から、強者や優れた者が弱者や劣っている者を助けるのではなく、いかなる人も一緒に生きていくためにそれぞれ自分が出来る役割を担い、共に生きていける社会・地域が必要であると、大震災を経験して、今確かに想っています。皆様、共に進んで行きましょう。

## 委員会活動の検証作業はじまる

委員会では、これまでの活動軌跡をたどり、事実関係のみならず携わった構成員の思いも記すアーカイブを目指して作業を開始しています。方法は、アンケート調査や、岩手県・宮城県・福島県の支部及び県（協）会へのヒアリング等です。未曾有の東日本大震災後の対応は、被災地内外のあらゆる組織、あらゆる専門職にとって初めてのことで、地域により人により支援への考え方の温度差も当然あったことでしょう。これらも含めて一職能団体として記録を残すことが今後の「備え」となると信じて進めていければと思います。

### 【手始めに、1泊2日会議で昼夜語り合う】

さあ検証を。しかし、委員も代替わりして当初を知っているメンバーはごくわずか。私も含め多くが中途入会で、被災地支援の経験や立ち位置もさまざま。そこで、6月8、9日に仙台にて2日間に渡る委員会を開催し、グループワーク中心にとことん話し合う機会を持ちました。まずは、委員会活動における「モヤモヤ」や「不安」を出し合い、それが「どうしたら良くなるか？」についてカードワークで詰めていきました。モヤモヤの一端としては、「最初の目的が共有できていない」「発信の意義と効果は？」「委員会の存続は？」など組織活動の目的や効果について、更に一委員として自身に向き合う内容も多く見られました。この前提作業が、お互いの思いを共有し、同じスタートラインに立つことに役立ち、また夜の部への準備性を高めたことは言うまでもありません。2日目は、情報発信、物販、検証の事業担当ごとに分かれて、これまでできたこと、できなかったこと、やるべきことについて話し合いました。今後の検証経過をにゅうすでお伝えしていきます。（伊藤）

### 【ただ今検証中！！ 東北3県支部・県（協）会へのヒアリングを実施しました】

東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県・宮城県・福島県の各県支部へ検証の1つとして、ヒアリングを実施しました。「8年という月日を経過したからこそ整理できるものがある」「これまでの足跡を検証することは成果と課題を含め、今後、起き得る大規模災害の備えの一助になる」と考えたためです。本委員会は今期テーマの1つに「検証」を掲げておりますので、その検証の結果は、年度末頃を目処に構成員の皆様へお届けする予定です。（菅野直）

### 福島県支部(福島県精神保健福祉協会) ヒアリング速報

震災と原発事故の当時、構成員それぞれが、所属組織の職員の立場で、協会支部の立場で、そして被災した個人の立場で、何を感じどんな活動をされたのか、また混乱や葛藤、経験から今後への課題整理など大変貴重なお話をいただきました。今後、委員会が、支援者支援という観点から、これまでの取り組みをどう各地災害への復興支援に汎用していけるのか、大きな課題を感じるとともに、引き続き発信していく重要性と、災害支援への心構えや取り組み方を後進へも伝え育んでいく必要性を感じました。（三瓶）

### 宮城県支部(宮城県精神保健福祉協会)ヒアリング速報

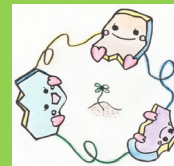
未曾有の災害に直面し、ご自身も被災者として「支援される側」を経験したことでその後のソーシャルワークの意識が変わったこと。また、災害支援の経験を後世に伝えていくために各所属機関と教育機関が協働して科研費を利用した研究をしてはどうかのご意見など示唆に富むお話をうかがうことができました。（小淵）

### 岩手県支部(岩手県精神保健福祉協会)ヒアリング速報

災害時の準備について理解はしていたものの、対応できていなかったこと。災害時には受援を含め、コンサルテーションが必要だったこと。職種単独での活動には限界があったことから、福祉支援チームが発足したこと等、当時の体験、想い、ご意見等をうかがい、あらためて、課題がとてつもなく大きなものであると感じています。（鴻巣）

## 今年度もやります！「復興支“縁”ツアーin みやぎ」

「東北の今を見てほしい」「今だからこそ、一緒に語り合いたい」そんな想いを胸に、今年度も「復興支“縁”ツアーin みやぎ」を開催します。今回は宮城県を巡ります。現在2020年3月中旬の開催を目途とし、次号のにゅうすにて詳しいご案内が出来るよう準備を進めています。次号を是非ご確認ください！！（長谷）



### 【ご意見・ご感想をお寄せください】

本委員会では、構成員はもとより、3県の事業所や地域のみなさんとの交流を大事にしております。ぜひ、それぞれのお立場からの声をお聞かせください。お寄せいただいたメッセージは、本紙面や本協会ウェブサイト、事業所等にご紹介させていただきます。FAXもしくはE-mail: office@japsw.or.jp で皆様のお声をお聞かせください。

★題名に「PSWにゅうすについて」とご記入ください★

### 編集後記

鈴木長司様の文章の一つ一つの文字に、秘められた想いが感じられる。大震災を経験し「共に生きていける社会・地域が必要」と。今後の私たちの活動が問われている。（鴻巣）

第42号 2019年9月15日発行

発行：公益社団法人 日本精神保健福祉協会 東日本大震災復興支援委員会

〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL. 03-5366-3152 FAX. 03-5366-2993

★URL <http://www.japsw.or.jp/> ★東日本大震災復興支援サイト <http://www.japsw.or.jp/ugoki/f-jyoho.html>